

党旗

青年版
第3号

1980.11.13
党旗社

編集・発行人 中村光雄
東京都墨田区亀沢3-27-3
マル青間中央本部
〒130 電話(03)1624-2481
関西地区事務所
電話(06)349-2354

帝国
社会
万國

國主
云帝

義打吉國勞

打倒！

卷之三

國脉圖

青年

セヨ！

志願せよ！
社会主義先鋒隊救國
募兵運動の一部署へ

運動の全国民化への徹底的促進を戦取する秋期闘争の飛躍にむけて

すべての青年・学生の同志友人諸君、
今日、政局情勢（ならびに社会・經濟情勢）たゞ心とおき
なれど、かねれど、一朝に暮、それを正面から直視し、反
應する」とぞ遠回して、何へもよくな人々にも、もがや否
定しながら形を、おわれて無異な戰時色彩を拂ひこよげん
はあくの如しの誤れるといふことなつてゐる。
とりわけ、11/16の日正に独自の十万人集会や、11/18の
民青諸君の十年ぶりの全国統一ストライキ、それならうか
11/21の社会党・統部の譲憲全国統一行動を、10/21開戦の
統治を更に深化し、今秋期開戦の派遣を促進するものとして
組織していかねばならぬ。

昔、どきどきして「CCC」を安保闘争以来の大競闘争などが、十年ぶりに扱はれていた。しかし、なぜ日本の共産主義運動と勝手気ままに扱はれていたのか、誰も正面向から見直す機会を失ったままでは、どうしていいのか、誰もうなづかうことができない。日本の共産主義運動の歴史をあつたなうことなど、ついては、日本自身で、誰も答えない。誰もが、日本共産主義運動の歴史的断絶——人間的変革活動における社会的断絶を意識し、その遺産そのものの再生をめざす根柢を絶する指摘が、到來した。どうしてかの心地、それは、マルクス的前衛活動の社会化とマクルーアン的社會運動の全国民化として組織化してしまったのである。

戦時國家体制下資本主義への移行——朝鮮戦争を媒介にしてつくり上げたキリスト教復興——戦後革命から日本に五〇年代分裂をもつて日本の日本共産主義運動の歴史的断絶に寄食してきて、巨転向、挫折又即ち持続的帝国主義的文明との取り引きの由でつくり立てられた三無城内平和な右から左へ跳びにく音勢^ノをおおいに利用して、人間的変革活動の社会的断絶をうめつくしてりく闘^ノの先鋒^ノとな、八〇年代の青年運動の貢献である。

「自民党左派の反動反勢、強権国家体制への危険な動き」
はもう黙つてはいられない」と、たつての宮元・文化人タレ
ーブ・講義者グループ、平和クリア等々が「最後の良
心」の血しどとでるべく集い、「政局反動、生者破壊政策」に
国民的怨讐を」と曰ふ。諸君が大空襲以後に「われは生き
て始めての独自的大旅行團のほり復をもつてこいる。そし
て、七〇年代の右翼の理性は、「アレはアレでは方ない」と
いう、さういの政治評価を加えず、中間がることが唯一解説主義
にならないすべであると心得ておる。そして、「の平時と否
問の政黨活動に対する自己防衛をすこりなから、戦時へ入
つてこそ戦時の理性か、「コレでは止め」と自己防衛にな
つておる。「されば戦時の手工業性人と転化していくのか、そ
れども戦時の意識性人と転化していくのが、ここに石川レ
タリア政見若割の鳥居の問題なあり、戦時の意識性人と転化
するためには、共産主義運動の全史を公開し、ここからす
べてに評価を下していくという社会化的義務を課していかな
ければなりない。

そしてそれは、一人間的政黨活動の社会的断絶があるから
こそ、その根柢そのもの
を廢絶する二点をえて、
として戦後二十年をか
かなければならず、その
歴史こそマルクスの全史
であり、革命的大衆行
動の後の諸分離と正面力
を放棄する二点にしては
前衛党建國はありえない

共产主義運動の全歴史を公開し、人間的変革活動の社会的断絶をうめつくす八〇年代の青年運動を闘いとめ！

「すゞの青年学生語」、戦時の自然発生性には、平時の「意識性」が抗議の声をあげてゐる。

軍事的封建的帝国主義
への人民民主方義開闢等なら
り、日本帝国主義の復興
期の闘争への転換の中で
戦後革命で確実・動員し
生命力を次の革命に相
織するための「國家独立
資本主義」・社会主義の
ため「利用する」という
御用建設の形態「失敗」
したのは、徳田球一の調査
論争の継承のところの半

同青少隊方面西關

「低文化があつたから」であり、「この問題を正面から扱はず」家父長批判をもつて、「ブルジョア民王主義なられ判し、反共主義・無产主義への自己防衛で帝國主義をあつかい、反帝闘争や民族闘争へと積極を演していふ」のか、宮本君の転向・挫折の問題である。

「これら出来事して、日本に「かめる前衛党建設めど」と六〇年代を廻り、六〇年代後半の闘争をレーニン主義の復権と社会化として、革命的左翼な、いわば城内平和を左から解体し帝国主義のあらゆる文明を解体しきつてのめ、党的躍進の条件をかくる」となで語るとして、六九年一月決戦をもつちぬいたが、内乱・蜂起を組織する覺の躍進に失敗(三)のである。この敗北の後、派生して七十一年度初頭の解党主義の風の中で、解党主義への私的理解をうち解きつつ

「」の結果生じたすべての手工業性をうけとり、「二二」へ行きつたところをなかつて思想方法、工作方法そのものを廢絶し、永樂軍師の思想方法、工作方法へと轉化していく。マルクスの唯物的闘争に他ならず、これが党的七〇年代の開拓・堅固・挫折を生み出す根源そのものを廢絶していく。日本共産主義運動五十年を総括する闘争であつたのである。どうであるか故は、七〇年代の十年間につくられてきた

党關係とは、単純に「無知で、いわゆる活動を知らないなど」というよりも、わが党との丸ねあいと、自らの位置をつくり、ある種の感情をもちながら、それをかくして生むものなのである。この転向・挫折の文脈を生み出すべくしてある政党操作を媒介物として、「指導者のために働く」という社会主義への中間駆入と組織化といかなければならぬ。

〔2〕
る転向、挫折の文明を廃絶し、社会主義先鋒隊救国募兵運動の一部署入!!

すべての貴先生諸君！
現在の政局情勢はどう評価するのか。
今回のアメリカ大統領選挙と連邦議会選舉で、し
かしと共に共和党が勝利した。一九三〇年以来、アメリカ市
場で支配的立場を占めていた「コールド・テイラー連合」(ホワイト・ハウス・寒
相撲労働者＝黒人衆・リベラル派)によってして民主要派
階級基盤そのもの崩壊の一構造を作動しなかつた。
其筆者はアーヴィング・カーネギーの資本主義体制

中心で、人間的・機械的・生き物的といつも重々、折衝の構造
くあらたのであつて、一時的には、右からくずれこむつづけ
えうか、全世界的にこの機械的の開拓が重行してゐるのであ
日本でもタブレット差等といふことでくずれいわゆる体制内ケ
ルト・ヒューマニズム、人文主義の政策が歴史のや

をかりて握つてしまつてはならない。そこで今や、國家独占資本主義は、戦時の超価利潤をめつて、その一ひとは必然的に共産主義をめぐつて分裂して

「へと」、「へこつく」。被指導者衆に「指導者のため」で訴え、「へ」ということを要求する「へ」が始まり、一方は公然と反主義に依拠し、共産主義へとつづけられることを介して要求し、他方は、日本の方針を探索して分裂していく。共産主義者「」の分裂を利用して、「指導者のため」で「へ」ということじみた

文明を解体し、共産主義へ行こうとする組織として日本はない。そのためには戦後三十年でつくれた上院監視院をテコとして利用し、ブルジョア政右の構造を分割して見る。

（以下略）

おとづって、頭髪はつくらめてこのへんに立派だよ。」
である。「おまけに、田中さんを介して、僕をつくる一
大〇年後半」
著者注記

日本は、この結果として、の結果多くもの、は、の形態を見なくなつた。日本は、外の何でもない。

方の意見本を、一冊を刻印せしめて、共産主義運動の読本となつて、空文句に他ならぬ。レーニン以降、共産主義運動歴史的断続をつめる仕事は、二、三のものの中にあって、解説主義の根柢そのものの戻り、共産主義的民族方法、一方の手に対する所へ(二三)、七〇年代の時代と、細胞組織論、そのあとから、細胞組織論、再び「組織をつくら」とども、共産主義運動の生死史を掌握しきつておるのである。

ところで今日、青年主義運動の社会化——「リバティ」的前衛主義の社会化は、今日づくらめている。日本を媒介としたこの諸構造を介する以外になく、この諸關係とテ「一チキ事」として社会化していく以外に方法のないものである。

しかり、九五トーセンの人々は、國家統治権本位を介する以外に社会主義に移行するとはじきず、この由来を追ふることをやめておらぬい。

今日多くの人々は、「田舎町の人口」といふてゐるが故に、この題ひ不適かつ上り、西日本新しさへりて、自分とも他人でも説明のつかない現象を生活の中と表ひてゐるのである。日本では、「田舎町」の人口じたすのみ、つうと西へりてゐる。そのことば、新潟國家税局員津守義を飛ばしてあり、ス

日本を統治しており、国有化を実行しており、戦時医療法による主義の分解と被旨を恐れていたに他ならない。社会党一日もとのコントレックスブルジョアの資本の下でのみ日本との不融通をつくことなどできまい。党的の内争としての意識をさかん、結局はいつも「清潔としてのための方針

これらもつともルシヨア政局の下でいつてはいたら、
どうものであり、支那政府のどちらに加担するのか、この
文明しかもつていず、ニを介してこそ社会主義へ接近する
なり。

の内で、左派右派があることは必ずしも、政右派針を自由的であることはできない文明であり、當時への移行で、右派が左派よりも壓倒的な勢である。民社党一権力からオーバーを止めようとするか、一層動かし続けるやり方は向かうの文明を立てておらず、社会

主義へ進歩で行きハイナ集団である。
二二二の革命工作者、革命生產階級の指導論理を、「國家的本主義」は社会主義に近づけよ、全く違ひでいるが、社會資本主義、小農経営者「比べれば、一歩も二歩も進歩ある。」「他ならぬ。」社会主義は、中立的立場で、日本式

比へれば全くの異同、擇持であつた。いは完人のがつ
社会党や前田更三に比へれば、教宗も開進なのである。
→のことを見聞たりものは、社会主义への移行の本體と
ひとつ理解しておこう。あくマクラ「他大らむ」の因である。

〔3〕 又ル青団的前衛活動の社会化とアル
青年的社會運動の全国民化を徹底的
的に促進する八〇年代の青年運動を
闘いとく

すべての青年学生諸君、
八〇年代の青年運動とは、人間的尊重活動への社会的
絶えぬつくり、転向・挫折の文明を生み出す社会構造へ
ものを庶民して、くものであり、従来の反政的的、当面の
書見地や教導への恐怖から提起していく一大衆運動と想

の一手を切つたのである。どうもあるが故に、論理の中
自己防衛をつくりなければ、事態を描き正せないといつて
危機意識的自己防衛的論理がないなら、大衆運動など
はこういふ城内平和をもつとも促進してこそ「文明」と能
く手を切り、人道的変革運動を展開して更新していくこと

（了）「政治目的と集団行動のめで組織するべき運動」は何かがえらばれしと、その過程としての變化を廃し上者を運動され、「指導者のために働く」と中間取扱つてのみ、社会主義人いけることを強調した。

（中略）
すべての青年学生の同志友人諸君、
自らの歴史的社會的階級的責任をつねめ、
社会主義者へ轉換、救國暴兵運動の下へ志願せよ。

一九八〇年十一月一三日